

## 事例5 「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」をねらった事例

- 学年 第2学年
- 主な領域 [知識及び技能] (3) 我が国の言語文化に関する事項
- 事例のポイント
  - ①既習事項を踏まえ、学習を振り返り、生徒が学習内容を捉えることができるようにする。
  - ②生徒が選択し、工夫を考えることによって、主体的な学びにつなげることができるようにする。
  - ③ICT端末を活用して、学習進度に応じて学習内容を確認することができるようにする。

### 1 単元名・教材名 行書と仮名の調和を意識して表現しよう「行書と仮名の調和」

### 2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、昨年度、硬筆や書きぞめの学習の中で、字形や楷書の書き方、行書、仮名の学習に取り組んできた。さらに今年度は、硬筆の学習の中で、漢字と仮名のバランスについての理解を深めてきた。しかし、文字を整えて書くことが苦手な生徒は、ICT端末を使用し、活字で表現しようとするものが多くなり、授業でも文章作成ソフトやプレゼンテーションソフトを活用しながら学習の記録を取る姿がよく見られるようになった。活字で書かれた文章は誰が書いても字形が整っており、そこに美しさを感じる生徒が多いように感じる。もちろん、内容の変更が容易であったり、字形が整っており読みやすかったりするよさもある。しかし、漢字と仮名の調和など、手書きだからこそ得られる魅力があると私は強く感じている。その魅力を生徒たちに感じさせたい。

本単元は、毛筆で行書と仮名の調和について考えながら色紙に表現することを目的としたものである。日常生活を振り返ってみると、漢字のみ、仮名のみで書くことは少ないため、本教材を活用して学習を行い、生徒たちの実生活につなげていきたい。生徒の多くは、毛筆を使って文章を書く機会は少ない。そこで、本単元で学習したことを生かし、実生活の中で毛筆や筆ペンを使用する生徒の育成を図っていきたい。

指導に当たっては、これまで国語の授業で扱ってきた、短歌や漢文、百人一首等を色紙に書き、作品に仕上げる学習を設定した。古典で学習した和歌や文章等を用いることで、生徒が親しみを持ちながら、我が国の伝統的な文字文化にも注目して書くことができると考えた。また、自身が選んだ文や文章を作品に仕上げる学習を行うことで、生徒が主体的に学習に取り組めるように留意する。毛筆の使用に苦手意識をもつ生徒も多いと感じているため、筆ペンも活用していく。筆ペンは毛筆よりも硬く、比較的扱いやすい。毛筆と比較すると、各家庭にて使用されることが多い筆記用具である。筆ペンを使用する中で行書の筆脈を練習し、生徒の課題解決を目指していく。さらに、ICT端末を活用し、動画や画像を用いて、生徒自身が自分のタイミングで筆の扱い方を確認できるように工夫していく。

### 3 単元の目標

- (1) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。  
〈知識及び技能〉(3)ウ(ア)
- (2) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 本単元における言語活動

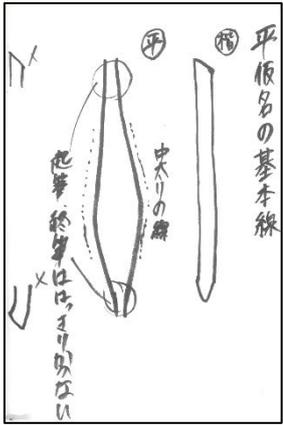
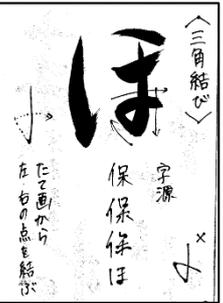
文や文章に合うように、漢字と仮名を調和させながら色紙に表現する。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書いている。 (3)ア)	①粘り強く漢字の行書と仮名が調和する書き方を考え、今までの学習を生かして自分が選んだ文や文章を色紙に書こうとしている。

6 指導と評価の計画 (全3時間扱い)

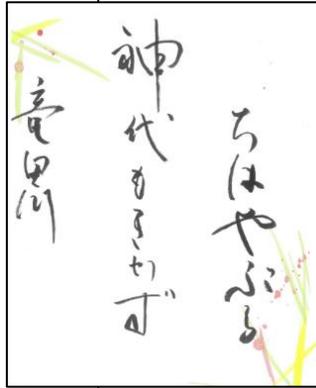
編 P35 指導計画作成の留意事項(9)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<p>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>○既習事項の行書の基礎的な書き方を想起し、気をつけるポイントをまとめる。</p> <p>○仮名についての基礎知識を学ぶ。</p> <p>○仮名の基本線を捉える。</p>  <p>○基本線の練習をする。</p> <p>○和歌や漢文等から好きな漢字仮名交じり文を選ぶ。</p>	<p>事例のポイント① 既習事項を踏まえ、学習を振り返り、生徒が学習内容を捉えることができるようにする。</p> <p>○仮名の書き方</p> <p>○仮名の基本線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中太りの線</li> <li>・始筆・終筆の書き方</li> </ul> <p>事例のポイント③ ICT端末を活用して、学習進度に応じて学習内容を確認することができるようにする。</p> <p>編 P35 指導計画作成の留意事項(1)(8)</p>	<p>○1学年の学習及び2学年の硬筆での学習を踏まえ、行書と仮名の書き方について確認する。</p> <p>○平仮名の字源を確認し、筆順や筆脈を意識できるように指導する。</p> <p>○仮名の基本線として、中太りであること、起筆・終筆ははっきり書かないことを押さえる。</p> <p>○国語便覧及びインターネットを活用し、自分が好きな漢字仮名交じり文を選択するように指導する。</p> <p>評価規準 【知識・技能①】 観察、練習用紙</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、仮名の基本的な書き方に気をつけながら、平仮名を行書で書いているかを確認する。</li> <li>〈努力を要する状況(C)への手立て〉</li> <li>・教師が生徒と一緒に書いたり、デジタル教科書等を活用したりしながら、繰り返し取り組ませる。</li> <li>・毛筆書きが難しい生徒には筆ペンを使用し、練習させる。</li> </ul>
2	<p>○前時の学習を確認する。</p> <p>○仮名の結びを練習する。</p> <p>○自分が選んだ文字や文章の「書くときの注意点」を考える。</p> <p>事例のポイント② 生徒が選択し、工夫を考えることによって、主体的な学びにつなげることができるようにする。</p> <p>○「書くときの注意点」を踏まえて、練習する。</p>	 <p>○結びの書き方</p> <p>○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方</p>	<p>○横結び(平結び)、三角結びの結びについて確認させる。</p> <p>○自分が好きな文や文章を選ぶことにより、主体的な学びとなるようにする。</p> <p>○漢字の行書の書き方と調和するように留意することを伝える。</p> <p>○ICT端末と教科書に掲載された漢字や仮名の行書一覧表を用いて字形を確認し、生徒自身が手本を作成する。</p> <p>評価規準 【知識・技能①】 練習用紙</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、学習した仮名の書き方と漢字の行書が調和するように気をつけて書いているかを確認する。</li> <li>〈努力を要する状況(C)への手立て〉</li> <li>・大きさや筆脈、字の中心などの視点を伝え、調和を意識しながら書くことができるように指導する。</li> </ul>

3

○自分が選んだ文字や文章を練習する。

○色紙に清書する。



編 P35 指導  
計画作成の  
留意事項(3)

○前時の学習を想起させ、どのようなポイントがあったのかを確認するように指導する。

○色紙は生徒一人一人に準備させる。その際、1学年の時に美術科で学習したマーブリングやスパッタリング等のモダンテクニックを活用し、色紙を装飾してもよいことを伝える。自分が選んだ文や文章のイメージに合うような色紙にすることで、生徒の意欲を高めることにつながる。



○本単元のまとめを行う。

- ・漢字仮名交じりの書は、仮名を漢字の書体に調和させて書く必要がある。
- ・調和させるためには、筆脈を意識して、次の画や文字につなげるように書く。

○過度に色紙を作成することに注力しないように指導する。

○単元の最初に考えたことと比較することで、本単元の学習により自分の考えや技能がどのように変化したかを記入させ、単元の学びを生徒自身が認識できるようにする。

○学習の振り返りをする。

期待される生徒の振り返り

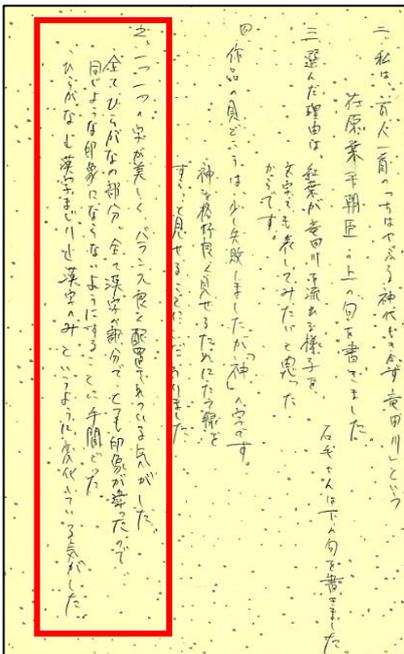
- ・楷書や行書について学習したときには、漢字のみ書いていたので、字の大きさや中心線を意識すると全体のバランスがよくなったように感じた。しかし、平仮名は柔らかい印象をもつ文字であるため、それだけでは漢字と平仮名が調和しないと感じた。漢字と平仮名を調和させるためには、漢字の筆脈を特に意識する必要があると思った。

評価規準

【主体的に学習に取り組む態度①】

ノート

- ・ここでは、単元の最初に想起した行書の書き方のポイントを踏まえながら、今回の学習で学んだことについて記入しているかを確認する。



事例のポイント①  
既習事項を踏まえ、学習を振り返り、生徒が学習内容を捉えることができるようにする。



実際の生徒の記述（色紙の裏に記入）

一つ一つの字が美しく、バランスよく配置できている気がした。全て平仮名の部分、全て漢字の部分でとても印象が違ったので、同じような印象にならないようにすることに手間取った。平仮名→漢字仮名交じり→漢字のみというように変化している気がした。

7 本時の学習指導（本時 2 / 3 時）

(1) 目標

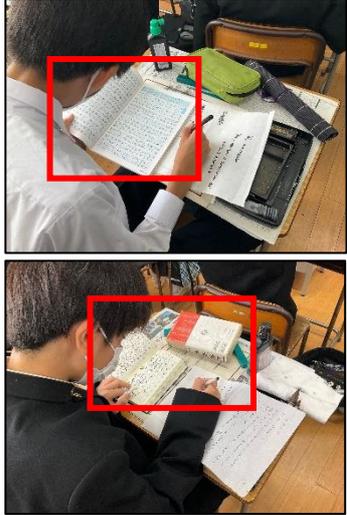
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。  
 〈知識及び技能〉 (3)ウ(ア)

(2) 評価規準

- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書いている。

【知識・技能】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返り、本時の学習を確かめる。		○授業前に毛筆の準備をするように事前に指導しておく。	1
漢字と仮名が調和するように気を付けながら、練習をしよう。		○横結び（平結び）、三角結びの結びについて確認させる。	
2 仮名の結びを練習する。	○結びの書き方	○自分が好きな文や文章を選ぶことにより、主体的な学びとなるように留意する。	1 0
3 自分が選んだ文字や文章について、具体的な「書くときの注意点」を考える。	事例のポイント② 生徒が選択し、工夫を考えることによって、主体的な学びにつなげることができるようにする。	○漢字の行書の書き方と調和するように留意することを伝える。	1 0
期待される生徒の記述 ・行書の漢字と仮名を調和させるためには、筆脈を意識する必要があると思った。平仮名は始筆や終筆をはっきり書かないようにするとよいので、つながりを意識しながら、筆先に気を付けながら書くようにしたい。 ・友達と「ちはやぶる……」の和歌を書くことにした。この和歌は風景を柔らかく描いた作品なので、書き方も柔らかく書けるように工夫したい。柔らかく書くためには、ゆっくり書くのではなく、ある程度の速さで書くことが大切だと思うので気を付けたい。		○ペアやグループで書くことも紹介し、二人の作品がそれぞれ調和するように書く意識をもちながら作品を仕上げさせる。	
4 「書くときの注意点」を踏まえて、練習する。	○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方 ・筆脈	 <p>「書くときの注意点」を考慮するには、教科書や「五體字類」を活用した。</p>	1 5
5 本時のまとめをする。			3
・漢字と仮名を調和させるためには、大きさだけでなく、筆脈を意識する必要がある。		<p>評価規準</p> <p>【知識・技能①】</p> <p>練習用紙</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、学習した仮名の書き方と漢字の行書が調和するように気を付けて書いているかを確認する。                  〈努力を要する状況(C)への手立て〉</li> <li>・大きさや筆脈、文字の中心などの視点を伝え、調和を意識しながら書くことができるように指導する。</li> </ul>	
6 学習の振り返りをする。			3
期待される生徒の振り返り ・お手本通りに書くだけでなく、次の字や画を意識することが大切だと思った。次回は、筆脈に気を付けながら書きたいと思った。			
7 片付けをする。			8